

平成 21 年 11 月 6 日

各 位

会 社 名 株式会社ヴィア・ホールディングス
 代表者名 代表取締役社長 大場 典彦
 (JASDAQ コード番号 7918)

問い合わせ先

役職・氏名 取締役 今井 将和
 電話番号 03-5155-6801

特別損失の発生および連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社は下記のとおり平成22年3月期第2四半期において、特別損失が発生する見込みとなりましたので、その概要をお知らせするとともに、平成21年5月15日付「平成21年3月期決算短信」にて発表いたしました平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)を下記のとおり修正いたします。

記

1. 特別損失の発生およびその内容

(1) のれん減損損失(連結)

減損会計に伴う処理について、当社の子会社である株式会社暁印刷において債権の取立不能が生じたことなどを踏まえ、現在の状況および今後の見通し等を勘案した結果、短期的な純資産価値の回復が困難であるという判断に至り、のれんの未償却分について一括償却し、今回新たに155百万円の特別損失を計上することとなりました。

(2) 投資有価証券の評価損(連結)

当社の保有する「その他有価証券」に区分される保有有価証券のうち、時価が著しく下落し、その回復があると認められないものについて、減損処理による有価証券評価損を計上する必要が生じました。

平成22年3月期第2四半期における有価証券評価損

	個別	連結
(A)平成 22 年 3 月期第 2 四半期会計期間(平成 21 年 7 月 1 日から平成 21 年 9 月 30 日まで)の有価証券評価損の総額(=イ-ロ)	1 百万円	32 百万円
(イ)平成 22 年 3 月期第 2 四半期累計期間(平成 21 年 4 月 1 日から平成 21 年 9 月 30 日まで)の有価証券評価損の総額	1 百万円	32 百万円
(ロ)直前四半期(平成 22 年 3 月期第1四半期)累計期間(平成 21 年 4 月 1 日から平成 21 年 6 月 30 日まで)の有価証券評価損の総額	－百万円	－百万円

※四半期における有価証券の評価方法は、切放し方式を採用しております。

※当社の決算期末は、3月31日です。

○純資産額・経常利益額・当期純利益額に対する割合

	個別	連結
(B)平成21年3月期末の純資産額	5,673 百万円	7,836 百万円
(A/B×100)	0.0%	0.4%
(イ/B×100)	0.0%	0.4%
(C)平成21年3月期の経常利益額	305 百万円	1,078 百万円
(A/C×100)	0.6%	3.0%
(イ/C×100)	0.6%	3.0%
(D)平成21年3月期の当期純利益額	163 百万円	488 百万円
(A/D×100)	1.2%	6.7%
(イ/D×100)	1.2%	6.7%

(3) 関係会社株式の評価損(個別)

関係会社株式評価損について、当社の子会社である株式会社暁印刷の株式につき、その実質価額が著しく低下し、今後短期間での回復が困難であるとの判断から、特別損失として関係会社株式評価損100百万円を計上することとなりました。なお、本関係会社株式評価損は、連結決算上の影響はありません。

2. 業績予想の修正

(1) 平成22年3月期第2四半期連結累計期間の修正(平成21年4月1日～平成21年9月30日)
(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回予想(A)	21,500	700	600	170	7円01銭
今回予想(B)	20,198	183	70	△329	△13円60銭
増減額(B-A)	△1,302	△517	△530	△499	△20円61銭
増減率(%)	△6.1	△73.9	△88.3	—	—
(ご参考)前期実績 平成21年3月期中間	22,877	586	547	306	12円63銭

(2) 平成22年3月期通期の修正(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回予想(A)	44,500	1,600	1,350	500	20円61銭
今回予想(B)	40,000	600	350	△550	△22円66銭
増減額(B-A)	△4,500	△1,000	△1,000	△1,050	△43円27銭
増減率(%)	△10.1	△62.5	△74.1	—	—
(ご参考)前期実績 平成21年3月期	44,346	1,102	1,078	488	20円13銭

3. 修正の理由

(1) 平成22年3月期第2四半期連結累計期間

当第2四半期連結累計期間(平成21年4月1日～平成21年9月30日)におけるわが国経済は、国内外の経済環境における最悪期は脱し始めた感はあるものの、企業倒産件数は高止まりが続くなど景気回復の不透明感はより増してきております。また、個人消費を取り巻く状況においても、雇用情勢と所得環境の一層の悪化が進み、外食産業におきましても消費マインドが低下するなか、依然として厳しい状況が続いております。

このような状況下において、印刷流通事業については、出版業界をはじめ主要顧客を取り巻く経営環境はより厳しさを増しております。当社子会社である(株)暁印刷は印刷事業に集中するとともに、デジタル事業の強化を進め基礎収益力の向上を確実にこなしてまいりましたが、平成21年9月7日付開示の「子会社に係る債権の取立不能又は取立遅延のおそれに関するお知らせ」にてお知らせいたしましたとおり、取引先の破綻により売掛債権354百万円の取立不能が生じました。

また、当社グループの中核事業である外食サービス事業におきましても、新型インフルエンザの流行による消費マインドの大幅な低下や、商勢期である夏季における天候不順などにより、エンターテインメント業態や高客単価業態を中心に、売上高が当初の計画を下回る見込みとなりました。こうしたなか、中期的な基本戦略である「既存事業のバリューアップによる基礎収益力の向上」を中心とした積極的な施策を実施するとともに、(株)再生プロジェクトによる低収益店舗の業態転換等を進めてまいりましたが、売上高の減少に伴う営業利益および経常利益の減少を補うには至りませんでした。

当期純利益につきましては、のれん減損損失、投資有価証券の評価損および店舗の減損損失等の特別損失を計上したため、計画を下回る見込みとなりました。

以上の理由から、売上高は20,198百万円(前回予想比△1,302百万円)、営業利益は183百万円(同△517百万円)、経常利益は70百万円(同△530百万円)、当期純利益は△329百万円(同△499百万円)となる見込みです。

(2) 平成22年3月期通期

当通期につきましては、現状の経済情勢の混迷が継続し、実体経済における景気低迷の長期化による影響がさらに厳しくなることが予想されます。また、当社グループ最大の商勢期である冬季での新型インフルエンザの流行リスクを鑑みるとともに、宴会需要等の年末年始の売上を保守的に見積もった結果、外食サービス事業の売上高は当初の計画を下回る見込みであります。一方で利益面については原価の低減、人件費の適正化および間接コストの削減等を継続的に進め収益体質の強化を図っていくものの、売上高の減少に伴い当初の計画を下回る見込みであります。加えて、印刷流通事業においても、厳しい環境下において印刷事業への集中を進めていくものの、取引高の減少に伴い、売上および利益についても当初の計画を下回る見込みであります。

以上の状況を踏まえ、当通期の連結売上高は40,000百万円(前回予想比△4,500百万円)、営業利益は600百万円(同△1,000百万円)、経常利益は350百万円(同△1,000百万円)、当期純利益は△550百万円(同△1,050百万円)となる見込みです。

- * 上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因により予想数値と異なる場合があります。

以 上